

発達障害児へのキャリア発達支援（楽集クラブ 3・9・1）

事業責任者： 廣澤 愛子（教育学部・准教授）
代表学生： 三屋 莉奈（教育地域科学部・4年）

概 要	発達障害児へのキャリア発達支援について 楽集クラブ 3・9・1 は発達障害を抱えた子どもへのキャリア発達支援を行う活動であり、福井大学教育学部附属教育実践総合センター教育臨床研究部門が主催している。活動では、①発達障害のある子どもが、自己理解を深めると同時に、社会性(主体性・他者理解・協働性)を身につけること、②発達に弱さを抱えた子どもの保護者が育児負担感を軽減し、子どもと良い関係を築けるようになること、③特別支援教育や生徒指導・教育相談に携わることを目指す学生が、教師になった後も活用できる、発達の・心理的課題を抱えた子どもへの専門的支援の在り方を体得すること、の 3 点を目的とした。これらについては学会などでその成果を報告したが、今後も本活動を行いながらその成果報告を続け、地域貢献（発達障害のある子どもへの支援と教職志望学生の支援力育成）と研究を繋げながら、活動を継続したい。
関連キーワード	発達障害児へのキャリア発達支援, 保護者支援, 教職志望学生の支援力育成

事業の背景および目的

楽集クラブ 3・9・1 は、2011 年 4 月に始まった事業であり、今年で 6 年目となる。発達の弱さを抱えて社会適応に困難が生じている子どもに居場所を提供し、SST をはじめとした様々な活動を通して、“キャリア発達支援”を行うことを目的とした療育活動である。

事業の内容および成果

【対象者及び対象地域】

福井市近郊に住む、発達障害のある子どもとその保護者

【活動内容】

活動内容は、以下の6点に集約される。1) 一人一人の子どもの学習の進度に応じた、個別学習活動(→基礎学力を培う)、2) 一人一人の子どもの自主性・創造性に委ねた自由活動(→主体性・自己決定力・自己肯定感を培う)、3) 複数の子どもたちが協働して行う、集団活動(→自己主張と他者理解の両立、すなわち社会性を培う)、4) 3)の活動を発展させた、遠方への体験学習や販売活動といった実践活動(→就労に直接つながる実践力を培う)、5)保護者への面談やアドバイス、さらに、医療機関や教育現場との連携、6)事前ミーティングと事後ミーティングを通して、教職志望学生が専門性に裏打ちされた係わりを習得

【活動日程及び活動回数】

第1週目を除く火曜日(16時50分～18時20分)の通常活動と、夏季・秋季・冬季に特別活動(半日～一日)を実施。1年間を通して37回の活動を行った。

【成果】

1)子どものキャリア発達の促進に繋がる基礎学力・自己理解及び他者理解・他者との協働性の育成、2)保護者の育児負担感の軽減と、医療や学校との連携強化、3)学生の教職専門性の獲得、の3点が達成された。

参考文献・添付資料および特記事項等

【参考文献】

Aiko Hirotsawa, Tomohiro Takezawa, Sakiko Ogoshi (2016) Influence of attitudes of supporters on independence and sociality of children with developmental disorders: Analysis of participant observation records in small-group activities, *Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities*, 60(7-8),788.

事業名称:発達障害児へのキャリア発達支援（楽集クラブ3・9・1）

事業責任者：廣澤 愛子（教育学部・准教授） 代表学生：三屋 莉奈（教育地域科学部・4年）

キーワード：発達障害児へのキャリア発達支援、保護者支援、特別支援教育志望学生の支援力育成

活動の目的

小集団療育活動を通して、発達的な弱さを抱えた学齢期児童の社会性（自己理解・他者理解・協働性）を育成する

学生が実践を通して、特別支援教育や心理臨床の専門性に触れる

活動の内容

1回2時間の小集団療育活動を月3回、以下の内容で実施

- ①各子どもの進度に応じた、個別学習活動への支援
- ②子どもの自主性・創造性に委ねた、自由活動の支援
- ③子どもたちによる協働活動の支援
- ④共同活動を発展させた実践活動(→キャンプや販売活動)の支援
- ⑤保護者への面談・アドバイス、医療機関や教育現場との連携
- ⑥支援活動及び事前・事後会議を通して、学生の専門性習得を支援

事業の成果

以下の3点が成果として確認された

①子どものキャリア発達の促進に繋がる、基礎学力・自己理解・他者理解・協働性の育成

②学生が、特別支援教育の対象となる児童への支援を実際に体験し、その専門的観点からのアセスメントや支援方法を学ぶ

③保護者の育児負担感の軽減及び、医療機関や教育現場との連携成立